

シャロンの花だより

24期の主題 新しい歌を主に向かって歌おう

～ あふれる愛を となり人へ ～

「行ってあなたも同じようにしなさい」 ルカによる福音書10章37節



巻頭言

「あなたが何を話していたか何も分からなかった」

ルーテル東京教会牧師：関野 和寛

昨年は何度も他の教会の伝道集会に招かれ講演や礼拝メッセージを語る機会があった。大よそ出かけていく先では私はゲストであり、皆歓迎してくれる。そして講演や礼拝の後は「良いお話でした！」「本当に良い1日になった」そのような嬉しい声を聴かせてもらう。けれども私はそこで喜び過ぎないようにしている。その裏では同じだけの批判の声が起っているからである。私の耳に届くものから届かないものまで、特に何か新しいことを始めれば必ず批判を受ける。とは言うものの、目の前で自分が語った言葉や表現したものが誰かの喜びや力になるのであれば、喜びは隠せない。

先日、日本基督教団の伝道集会にて礼拝メッセージを語った後、数名の方が嬉しい感想を伝えに来てくれた。一通り人々と言葉を交わしたその後のことだった。杖をついた高齢のご婦人が私の方に歩いてきた。なんと90代の私の大叔母であった。近くの教会に通う彼女、この日私が礼拝メッセージを語ると聴きつけやって来てくれたのだった。大叔母は私の方に歩み寄り「和寛君、私は耳が遠いから、礼拝であなたが何を話したかは何も分からなかった……。けれどもね、今日あなたの姿を見て、あなたがちゃんと牧師をやっていることが良く分かった。あなたは私の誇りだ。」と語った。

魂が震える想いだった。もちろん親戚と言うこともあるだろうが、しかし大叔母は私が何を言っているかとか、何をしてきたかとか、そのようなことを評価軸にしていない。そうではなくて、私が十字架の前で笑顔で目の前の人々にキリストを伝えている姿だけを見てくれたのだ。それが彼女が私から聴いたメッセージだった。そして彼女が私に語った言葉は、私にとって福音として響いたのであった。「わたしの目にはあなたは高価で尊い。わたしはあなたを愛している。」(イザヤ書43章4節)

教会に集うこと、十字架の前に集うということは、まさにこの言葉に魂が包まれることなのではないだろうか。

共に負い合う 東教区女性会会長 市川 直美



24期役員をさせていただき3年目を迎える年になりました。1年目は年間通しての流れよりも、目の前の活動を一件ずつ大丈夫かと思いつつ進めていくので一杯でした。2年目になって、家庭や社会の多くの方面で会員の長年の奉仕の姿に触れる機会をいただきました。その活動が女性会の会員の長年の奉仕の継続、協力によりなされていることを改めて痛感しました。この灯火を絶やすことのないよう、さらに多くの方に伝えていきたいと願います。

昨年夏、神学校で行われたルーテル子どもキャンプを半日見学をさせていただきました。前日に知り合ったばかりの子どもたちが、かき氷作りや遊びを通してすっかり打ち解けて、のびのびと参加していました。グループの中に子どもたちより少し年上のリーダーがいましたが、その方たちは以前このキャンプに参加したメンバーで、常に子どもたちに寄り添っていました。まさに繋がる意味を感じます。さらに、このキャンプには女性会の会員によるプログラムの進行や食事の準備など、多くの奉仕の姿がありました。

昨年秋には、東京教会にて女性会会長会が行われました。毎月行っている役員会の話し合いの中で役員だけでは前に進めないテーマがありました。テーマは、①地区の繋がりを深めるためにすべきこと ②役員選出と会長会会場決め方 ③女性会連盟総会担当について・・・の3点でした。

年間予算には、前期からの引き継ぎで地区活動の充実を願い予算が立てられています。地区活動の一番の目的は“活動を通して繋がりを持つ“ことです。役員会では、なぜこのテーマが出てきたかの経緯を伝え、これからの女性会の繋がりについて、是非、共に話し合い互いを知り合うことができるようにと願いました。既に地区の集いを開催している2地区の話もうかがいました。当日50名の参加者と活発に意見交換がなされ、出さきれない意見はアンケートにより集められました【資料1】。役員会では更に話し合いを深め、1月13日の議事録にまとめて、各女性会に配信しました【資料2】。これは24期の方針です。これからも会員の皆様と共に進めていきたいと思ひます。



【資料1】2019年10月26日（土） 東教区女性会 会長会・女性の集い

<各個女性会アンケート集計（25教会中15教会回答）及び話し合いに出た意見をまとめたもの>

地区の繋がりを深めるために

- 地区会を持ち回りで開く
- 教区の役員が企画しないと難しい
- 地区の繋がりは良いが、自分の教会で手一杯
- 近隣2か所で集まり、聖書研究会など合同の女性会を開けないか？
- 年1回実施している集まりを、今後も大切にしてい（城南・神奈川は2回実施）
- 甲信地区は、会報を出し、定期的集まりを継続している

役員選出について

- 地区ごとに持ち回りで（今までと同じ）役員を選んでいく
- 持ち回りにせず、縛りを撤廃する

- 地区ごとでなく全体から選ぶ
- 各地区から均等に選出をといるところを見直す
- 役員は各教会の推薦があつて候補になっているので、信じて選んでいる
- 役員内の分担は、選ばれた役員同士が互選で決めた方がよい

会長会の会場などの決め方

- 他の教会に行ける機会だ
 - ・ 収容人数が可能な教会は候補にする
 - ・ 会場教会の負担が減る方法を今後考えていく必要があるかと思う
 - ・ 会場がキャンセルになったときのため、第2第3の候補を挙げておく
- 毎回、東京教会でするのが便利である
 - ・ 1年の内、1回は東京教会又は市ヶ谷教会2回目は各教会を持ち回りにする
 - ・ 東京教会、市ヶ谷教会を固定化しどちらかで開催する
- 会長会は、わかりやすい場所にしてほしい
- 教会と予定がぶつからなければ受けられる
- ハードルを下げ、集まることを大切にする
- 会長会に次の候補地を募る
- 午後12時半より食事無しの場合可能
- 役員の手は足りないが、会場の提供できる
- 会場費は予算を組むことで問題ない

女性会連盟総会担当の順番について

- 3回に1回は東教区の担当に賛同する
- 決めてしまわず、役員が開催しやすいところを決める
- 教会総会のように連盟総会は東京教会にして、ホテルは自分で探すのが良いのではないか？
- 役員に一任する
- 東→他→東→他→東の順番を提案する
- 担当の決め方は、総会で承認を得てほしい
- 順にこだわらず、できる教区がやるべき

《資料2》 第28回 24期東教区女性会役員会議事録

日時： 2020年1月14日（土） 10:30～17:00

参加者： 市川直美、成田節子、坪本告子、垣内恵子、天木鈴子

祈り： 市川直美

協議事項

1. 2019年10月の会長会における話し合い、及びアンケートのまとめに基づいて役員会の活動の方向を話し合った。
 - ◆ 地区活動費は教会の状況を共有し、助け合いつながりを持つことを目的としている。
 - ・ 各地区の繋がりを持つために、地区ごとに集会のまとめ役を選ぶ
 - ・ 各教会女性会会長、及び役員会は応援する
 - ・ 役員は東教区女性会規約に従い、地区ごとに話し合いを持ち候補者を決める

- ・ 会長会の会場の選定は役員会で候補を挙げ、1年間の見通しを持って地区で協力をする
- ◆ 連盟総会の地区担当について
現役員の人数が少ない中、現在の状況が次年度も変わらないとすると、連盟総会の地区担当は1回おきは難しく、3回に1回が適当と判断した

活動報告

城南神奈川地区の集い

成田 節子 (大岡山教会)

2019年9月28日(土)に、城南神奈川地区の集いを大岡山教会で行いました。今年は講演会の形で実施し、「介護について」と「後見人について」の話を伺いました。

介護についてお話しされた日吉教会の由井直子さんは、ケアマネジャーであり、介護福祉士と主任介護支援専門員の資格をお持ちです。要介護の申請の仕方や認定までの流れ、ケアマネジャーとの契約方法、介護保険で受けられるサービスなどについて教えていただきました。

「後見人について」は、大岡山教会の早川治子さん(弁護士)が、成年後見制度の手続き申請



に必要な書類、任意後見制度についてお話ししてくださいました。特に今しておかなければならないのは、任意後見人を決めておくことだというお話でした。判断能力が不十分になると任意後見人は決められず、裁判所の決定で後見人を決められてしまうそうです。高齢化が進む中でとてもよい話を伺うことができ、今後に活かしていかなければと痛感しました。30名の参加者と共に身近な話を共有できた会でした。

東京老人ホームを訪問して

三五 康子 (保谷教会)

2019年11月16日、東教区女性会の呼びかけで、東京老人ホームを訪問しました。2階の「めぐみ園」での集まりで私たちがホールに案内された時には、既にテーブル、椅子がセッティングされており、5名の入所者さんもいらっしゃいました。5名の方の左右に私たちも座り、落ち着いたところで市川会長の訪問の挨拶があり、次にボランティア世話人会より、ホームのボランティアの内容、時間等の説明がありました。予定された時間は長くはありませんので、早速皆で歌を2曲。「昨日、一生懸命、練習をしてきた」と言われる市川会長のピアノに合わせて「主われを愛す」「きよしこの夜」の2曲。小休憩の後、次は好きな色を選び、手を動かすぬり絵を楽しみました。ききょうの花とクリスマスが近いということで、ポインセチアの2枚を、皆で丁寧に塗りあげました。途中、職員の方が準備して下さったコーヒーや菓子をいただきながらおしゃべりして、恵みに満ちた感謝の時間を過ごしました。教会を通してのボランティア。神様の許しを得て、弱者に接することは、何と心温まることでしょうか。できる人ができる時に、ちょっと手を貸すことで弱者の楽しみが増し、私たちの心は満たされるのではないかと思います。





「ほしくずの会」の活動——キリスト者として思うこと——

「ほしくずの会」代表・大森 はつ子

1. 「ほしくずの会」について

「ほしくずの会」は山谷で路上生活を余儀なくされている人へ、おむすびと味噌汁を届けるルーテル教会東教区の信徒活動です。始まりは1994年バブル崩壊後。日雇労働者の街「山谷」は真っ先にその影響を受け、宿賃の払えない野宿労働者が増えて行きました。日雇労働者を景気の安全弁とする社会構造のなかで弱い立場に置かれた人々の生活・人権を守るため発足させたエキキュメニカルな組織です。

その発足当時から「ほしくずの会」の代表を努めて下さったのが、市ヶ谷教会の故赤間峰子さんでした。赤間さんは80歳を過ぎても夜7時半になると「ほしのいえ」に来られ、私たちが準備したおむすびと味噌汁を車に積んで、近くの公園で待つ野宿者のもとへ届けておられました。「おむすびを受け取る方がイエス様のお姿に見える」と語られたことが忘れられません。「もっとも小さい者の一人にしたのは、私にしてくれたことなのである」(マタイ 25章 31節~40節)

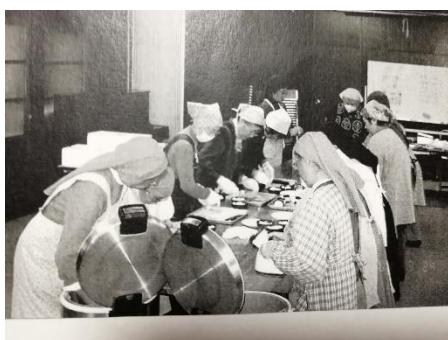
という主のみ言葉が、私たちの活動の原点と言えましょう。



2. みなさまのご参加をお待ちしています！

- ① 山谷「ほしのいえ」で・・・毎月第1, 2, 3火曜日
 13:00~おむすび作り 16:00~味噌汁作り 19:30~夜回り
- ② 徳田カトリック教会で(練馬・豊玉)・・・毎月第4火曜日 13:00~おむすび作り
- ③ 献金・・・郵便振替 001-3-661453
- ④ 献品・・・米、梅干し、海苔、味噌など

3. 今、思うこと



80歳を迎え人生の終盤に立って、「閉塞感のあるこの格差社会を、このまま次世代に渡してはならない」と思うこの頃です。2020年1月30日(木)カトリック徳田教会で「貧困への無関心を超えて」というテーマで若松英輔さん(批評家)と中村訓子さん(カトリック・シスター「ほしのいえ」の支援活動)のトークイベントが開催されました。その内容をご紹介します。

若松氏も、中村シスターも「**“貧困”**って何だろうか。お金がないことではない。家族、友達、相談できる人がいない。つまり、我々が命の大切さに気付いていないことである。自立支援、自己責任という考え方が日本の福祉を貧しくしている。これは長い時間をかけてできあがった社会であるから、今すぐ変えることはできないが、時間をかけて変えていくことはできる。変えていかなければならない。」と明言されました。

昨年11月にローマ教皇が日本を訪問され、長崎、広島では、戦後を苦しみに耐えて来られた被爆者に敬意を示され、「核兵器は持つことだけで、テロ行為である」と廃絶を訴えられました。東京ド

ームでは、若者たちに励ましの言葉を語られ、その中心には「すべての命を守るため」というメッセージが込められています。「それは個人的な信念ではなく、イエス・キリストへの信仰に基づいた確固たる信念なのです」と教皇の言葉を訳された若松英輔氏は語ります。みんな忙しい現代ですが、もっと政治にも関心をもって、もっと一人ひとりの命が大事にされる社会を、世界を目指して小さな行動をおこして行きたい。それは、すべての人の主であられるイエス・キリストが、私たちに望んでおられることと思うからです。

監査報告書【24期東教区女性会会計 2019年度決算・2020年度予算(案)】

東教区女性会(24期)

単位：円

	費 目	2019年度		2020年度	
		予算	決算	予算(案)	
収 入	東 教 区 会 費	500,000	472,800	490,000	1200×394
	教 区 便 り 購 読 費	20,000	21,600	20,000	100×216
	教 区 活 動 支 援 献 金	200,000	164,152	200,000	席上99,152 13教会 65,000
	感 謝 献 金	50,000	71,000	50,000	15教会
	コ ー ヒ ー シ ョ ッ プ	60,000	90,130	60,000	コ ー ヒ ー シ ョ ッ プ ミ ニ シ ョ ッ プ
	雑 収 入	1,000	11	1,000	普通預金利子
	小 計	831,000	819,693	821,000	
	前 年 度 繰 越 金	1,377,158	1,377,158	1,312,010	
収 入 合 計	2,208,158	2,196,851	2,133,010		
支 出	教 区 便 り	90,000	106,074	100,000	印刷 発送等
	会 議 費	100,000	37,220	100,000	説教・オルガニスト・講師等
	交 通 費	200,000	159,347	200,000	役員会・会長会
	教 区 交 流 費	100,000	87,808	100,000	遠距離教会交通費・教会訪問
	地 区 活 動 費	120,000	47,458	100,000	甲信地区 城南神奈川地区
	次 世 代 育 成 支 援 金	80,000	27,013	80,000	TNG活動支援・神学生へ手帳
	通 信 事 務 費	20,000	10,738	20,000	事務用品 郵便・通信
	慶 弔 費	10,000	0	10,000	
	予 備 費	10,000	0	10,000	
	支 援 献 金	200,000	242,815	200,000	神学校 災害被災者支援・ほしくずの会 東京老人ホーム ハタチヤ・千葉ハタチヤ ブラジル伝道・熊本支援
	連 盟 総 大 会 積 立 金	100,000	100,000	59,020	
	東 教 区 総 会 積 立 金	50,000	50,000	12,080	
	コ ー ヒ ー シ ョ ッ プ	10,000	13,761	10,000	材料費 包装費等
	雑 費	5,000	2,607	5,000	振込手数料等
	仮 受 金	0	0	0	
小 計	1,095,000	884,841	1,006,100		
次 年 度 繰 越 金	1,113,158	1,312,010	1,126,910		
支 出 合 計	2,208,158	2,196,851	2,133,010		

支援献金内訳(2019年)

支援先	金額
ほしくずの会	30,000
東京老人ホーム	20,000
ベタニヤホーム	20,000
千葉ベタニヤホーム	20,000
ブラジル伝道	20,000
災害被災者支援	30,000
九州教区(熊本支援)	20,000
神学校	82,815
合計	242,815

連盟送金内訳(2019年)

連盟会費	1,024,400
会報購読	101,500
連盟支援	84,000
感謝献金	77,650
サバ支援	212,750
リーストコイン	43,590
TNG	66,300
ACWC	3,100
合計	1,613,290

現金・貯金・残高

通帳	1,588,238	次年度繰越金	1,312,010
定期定額	500,000	積立金残高	778,900
現金	2,672		
合計	2,090,910		2,090,910

(2019年12月31日 現在)

連盟総大会・教区大会積立金

積立金会計	収入	支出	残高
連盟大会積立金	340,980		340,980
19年度積立	100,000		100,000
教区総会積立金	287,920		287,920
19年度積立	50,000		50,000

合計 778,900

コーヒーショップ	50,600
ミニショップ	39,530



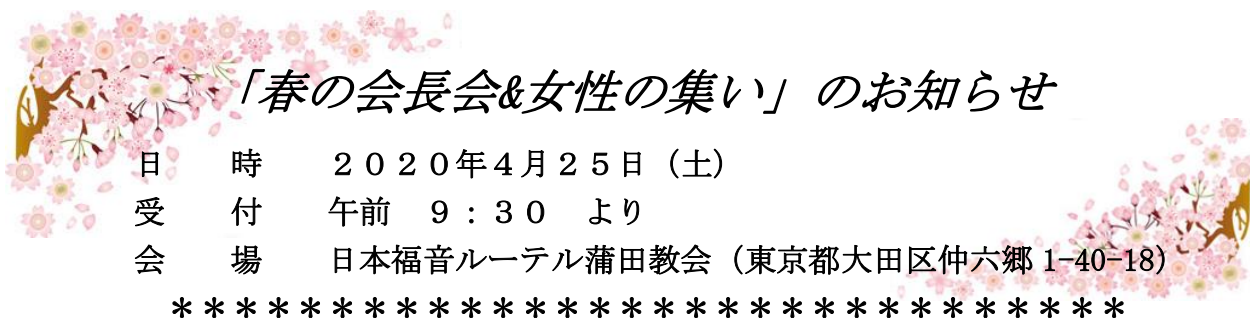
2019年度(2019年1月1日～12月31日)東教区女性会決算、2020年度予算について監査結果を報告いたします。皆様のお祈りとお支えのうちに、2019年度の教区女性会会計が守られましたことを深く感謝申し上げます。

1. 監査日時： 2020年1月20日(月)13時～15時半
2. 会 場： 田園調布教会会議室
3. 監 査 人： 岸田多希子(第24回教区女性会総会選出)
菱田 典子(第24回教区女性会総会選出)
4. 立 会 人： 市川 直美(教区女性会会長) 成田 節子(教区女性会会計)



10月26日(土)
「秋の女性会・女性の集い」から





日時 2020年4月25日(土)
受付 午前 9:30 より
会場 日本福音ルーテル蒲田教会(東京都大田区仲六郷1-40-18)

**上記の通り開催予定の春の会長会&女性会は、
新型コロナウイルス感染予防のため中止となりました**

今後の予定・ご案内

4月30～5月1日 コーヒーショップ(4月29日～5月1日 全国総会)
6月3～4日 女性会連盟合同役員会

編・集・後・記

新型コロナウイルスは、日本だけでなく世界中で大騒ぎ。歴史を紐解けば、早稲田の教授であった島村抱月は、松井須磨子との恋により芸術座を興したのだが、大流行したスペイン風邪にかかって亡くなり、二人の恋は終わる。須磨子は彼を追って、二ヶ月後の同じ日に芸術座の梁に着物の帯を垂らして自殺した。第1次大戦中の1917年11月5日のことである。当時世界の5,000万人もの人が亡くなったといわれている。この大騒ぎのさなかのシャロン4号の作業である。役員会で幾度も招集がかかったが、わたしは信州から東京行きを断り、何とかメールで校正をやり、ようやくでき上がった「シャロンの花便り」を皆さんに届けることができ安堵しています。原稿をお書きくださった方々ありがとうございました。ともかく一日でも早くこの新型コロナウイルスが治まってくれることを祈るばかりです。
(文書：垣内 恵子)

【シャロンの花だより】

- 東教区女性会会報 第96号 (24期 第4号)
- 発行日 2020年4月10日
- 発行人 日本福音ルーテル教会女性会連盟 東教区女性会
- 発行者 市川直美 ■編集 垣内恵子